

J A 自己改革推進レポートについて

令和 7 年 1 月 2 3 日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

① 第 5 1 回 J A 鳥取県大会

J A グループ鳥取は 1 1 月 2 1 日、湯梨浜町のハワイアロハホールで「第 5 1 回 J A 鳥取県大会」を開催した。県内 J A の組合員をはじめ、生協・漁協・森林組合の各協同組合組織や行政、J A グループ役職員など約 4 0 0 名が参加した。

今大会は「組合員・地域とともに食と農を支える協同の力～協同活動と総合事業の好循環～」をスローガンに掲げた。J A グループ鳥取として、前回大会から引き続き、「持続可能な鳥取県農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」の 3 つのめざす姿と、取組実践方策として 5 つの取り組みを満場一致で採択した。

記念講演では、関東学院大学の佐藤幸也教授が登壇。「持続可能な農業・地域の実現に向けた J A の役割」と題し、講演を行った。

J A 鳥取県中央会の栗原会長は「これまで不断の J A 自己改革を通じて J A グループの役割発揮に取り組んできた。今後も引き続き協同組合の本来の姿である原点に立ち返り、3 つのめざす姿に向けて着実に実践させたい」と話した。



② J A とっとり女性協議会 創立 7 0 周年記念集会

J A とっとり女性協議会は 1 1 月 3 0 日、湯梨浜町のハワイアロハホールで創立 7 0 周年記念集会を開催した。鳥取県農林水産部の岡垣部長、J A 鳥取県中央会の栗原会長のほか、J A ・連合会の代表者、同女性会員ら約 3 0 0 名が参加した。

「J A 女性 想いを紡ぎ未来へ紡ぐ」をスローガンに掲げ、女性の J A 運営参画向上や J A 女性会活動の充実を進め、J A グループと連携しながら持続可能な女性組織基盤の強化などの取り組みを進めることを申し合わせた。また、6 0 周年以降に就任した歴代の会長・副会長に感謝状を授与し、功績を称えた。



記念講演では、気象予報士の勝丸恭子氏が登壇。「いのちを守る気象情報とするために」と題して講演し、防災について意識を高めた。

同協議会の福井会長は「先人が築き上げた持続的な活動で現在の女性会活動がある。女性が伸びやかに活力ある活動を通じ、仲間とともに女性の視点で未来を切り拓いていこう」と呼びかけた。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

卓球×白バラで地域と交流

大山乳業農協は11月23日、大山町の名和農業者トレーニングセンターで卓球交流イベントを開催した。このイベントは令和5年度に続き2回目で、牛乳と親和性の高い「スポーツ」を通じて地域の子どもたちに「白バラ牛乳」を親しんでもらい、牛乳の飲用促進につなげることを目的としている。

同農協がスポンサーを務めるプロ卓球選手の松平賢二氏を講師として招き、鳥取県西部地区の小中学生約60名を対象に卓球技術や体づくりについて指導した。基礎的な技術指導に加え、チャレンジマッチなどで交流を楽しんだほか、講師陣による模範試合ではレベルの高いパフォーマンスが披露され、会場は大いに盛り上がった。

最後は全員で白バラ牛乳を手に記念撮影を行い、卓球を通じて地域の子どもたちが白バラ牛乳に親しみを持つ貴重な機会となった。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「パオ」がリニューアルオープン

令和5年6月末に閉店していた「やきにく工房パオ」が11月22日、「焼肉ホルモンパオ」としてリニューアルオープンした。

「やきにく工房パオ」は、コロナ禍での時短営業や職員の退職等の諸事情により閉店していた。しかし、組合員や近隣住民からの再開を望む声が多くあり、テナントとして事業者を募集していたところ、鳥取市内の建築会社が営業することとなった。面影を残しつつ内装を改装、「パオ」の名前も残してもらうことができた。

メニューについては、コストの関係上、全てが同農協の牛肉にはなっていないが、今後はイベントでの協力等で連携し、集客増につなげていく。



(4) J A全農とつとりの取り組み

①二十世紀梨導入120周年記念 鳥取梨づくり大会

J A全農とつとりは11月12日、倉吉市のエースバック未来中心で「二十世紀梨導入120周年記念 鳥取梨づくり大会」を開催した。県内生産者や指導者など約250名が来場した。

当日は、120年の歴史に関する講演、産地づくりのための取組発表、鳥取県産梨ジョイント栽培コンクール受賞者表彰などを行い、今後の産地を担う生産者の栽培技術の向上や生産意欲の高揚を図る機会となった。

今後もより一層の生産拡大や生産者の経営改善、技術向上につなげることができるよう継続して本大会を開催していく。



②沖縄県で「星空舞」の試食宣伝

J A全農とつとりは11月23日、24日に沖縄県内の量販店で「星空舞」の新米販売に合わせた試食宣伝を実施した。鳥取県内からはJ A鳥取いなば、J A鳥取中央、わかとりメイツも参加し、販売促進活動を行った。

沖縄県では令和5年2月から星空舞の販売を開始。来場者からは「いつも食べています」「以前食べておいしかったので買いにきました」などの声があり、リピートでの購入が多く、認知度の向上が感じられた。

今後も「星空舞」のさらなる認知度向上と消費拡大に取り組んでいく。



(5) J A鳥取信連の取り組み

令和7年度の農業融資にかかる取り組みについて

J A鳥取信連は、第50回J A鳥取県大会決議の「重点取組施策」として、「大規模な担い手への対応強化」を掲げ、需資対応はもとより担い手への経営コンサルティングや保証料助成など、金融仲介機能の発揮に取り組んできた。

第51回J A鳥取県大会の決議を踏まえ、次期（令和7年～9年度）J Aバンク鳥取中期戦略においては、現行（令和4年～6年度）J Aバンク鳥取中期戦略で掲げた「農業領域における金融仲介機能の発揮」に引き続き取り組むこととし、担い手等の目線に立ったサービスの提供を行っていく。

具体的取組事項としては、J A農業融資専任担当者を中心に、取引先との関係構築を目的として、支所・支店融資担当者および営農経済部門とも連携しながら、地域の中核的な農業

者および農業法人等に対して訪問活動を展開する。同会及び農林中央金庫は同行訪問等による支援を行うこととし、訪問先で必要とされる先には経営コンサルティングも行っていく。

また、令和7年度においても①JAバンク利子補給制度（当初3年間（農業近代化資金5年間）無利息、最大年1%）の実施、②農業近代化資金への保証料助成（鳥取県信用農業基金協会への一括前取保証料全額同会負担）を行い、農業者に対して農業関連資金にかかる借入負担の軽減を図り、農業所得向上に取り組むこととしている。

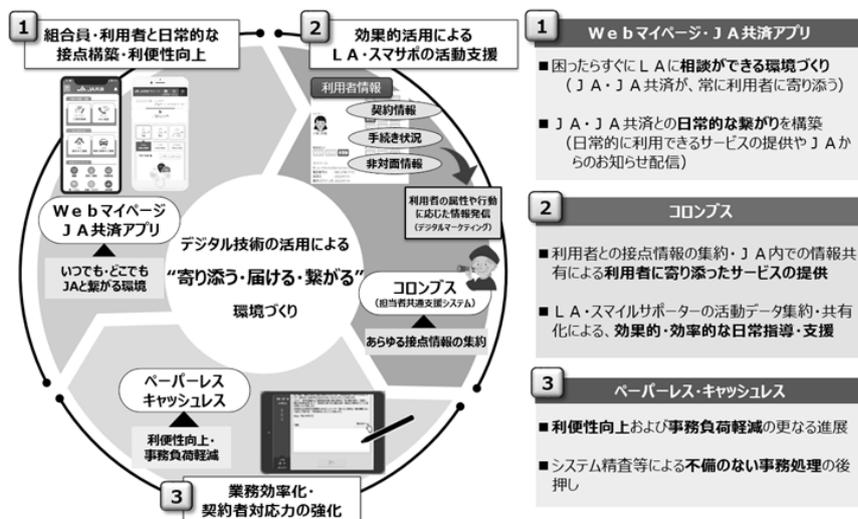
（6）JA共済連鳥取の取り組み

持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けて～デジタルサービスの活用と拡大～

JA共済では、組合員・利用者に「寄り添い」、包括的な安心を「届け」、農業・地域社会とより広く・より深く「繋がる」ことで、地域への保障充足に向けた取り組みを展開し、「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」の実現を目指している。

令和6年4月からはフォルダー制度を廃止し、マイページ制度に移行。利用者情報をより一元的に管理できるよう拡充をすすめている。

今後も利用者との「寄り添う」「届ける」「繋がる」環境づくりとして、Webでの継続手続や請求手続の拡充を中心に「デジタルサービスの活用」を拡大させていく。また、より利便性向上・事務負担軽減に向けてペーパーレス・キャッシュレスの取り組みも引き続き強化・拡充していく。



鳥取県での各種状況推移	R4.3月末	R5.3月末	R6.3月末	R6.12月末
Webマイページ登録契約者数（累計）	2,616人	5,135人	6,549人	8,081人
長期共済新契約ペーパーレス割合	87.8%	88.9%	92.1%	92.9%
長期共済新契約キャッシュレス割合	91.1%	90.6%	91.5%	92.5%
長期共済異動ペーパーレス割合	—	27.9%	53.7%	78.6%
自動車共済異動ペーパーレス割合	—	36.8%	52.2%	78.5%

以上